



HPはこちら

社員システム「新JINJRE」の稼働再延期 5月17日の団体交渉で原因や今後の対応、経営側の姿勢を質す

▼団体交渉で確認した事項

《原因》

- ・延期の1回目（2021年10月13日）は、事前の最終的な確認においてシステムのパッケージソフトの共通仕様に確認すべき不具合を発見し、稼働日までに改修が間に合わないと判断した。2回目（2022年1月14日）はデータ移行後の実機による検証の際、給与計算等に影響が生じる可能性がある不具合が判明した。

《2回目の再稼働日の当日に延期の判断を行った理由》

- ・事前に検証作業を行ってきたが退職者を含めた十数万人以上のデータ量があり、全量を事前に検証し尽くすことは難しい。実際に移行してみないと判明しないものもあるため、リスクをゼロにはできない。データ移行を行ったあとの最終的な確認で不具合が判明した。給与支給などを含め業務に万全を期する観点から稼働を見合わせた。

《稼働日の見通し》

- ・2022年8月中旬をめざして準備を行っている。

《不具合発生時の対応と社員への再周知》

- ・これまでの事務の取り扱いを継続することとなる。
- ・再々稼働にあたっては、教育を含め求められるものを検討し周知をはかる。

《5月20日、稼働に関する連絡を受ける》

- ・新JINJREを8月16日（火）に「勤務」のみ稼働する。
- ・「給与」「厚生」については未定。

▼度重なる稼働延期による混乱と現場実態を訴える！

- ・見える部分や見えない部分で、社員に心配をかけたことは心苦しく思っている。うまく切り替わると思っていた。反省して改善することになる。社員の尽力には感謝している。

▼団体交渉で認識の一致をはかる

- ・同種事象を繰り返さないことは「JR東日本の文化」である。そのことは現業機関であろうと、企画部門であろうと変わるものではない。
- ・システムは完璧ではない。システムに依存せず、人とシステムが共存していくことが必要である。4月に「えきねっと」がパンクした際、社員のカバーによって、お客さまへの影響を最小限に食い止める努力をしてきた。人とシステムが共存していく前提は、社員が知識や技術を持ち続けていくことである。
- ・施策に現場実態が追い付かないようなことがあってはならない。施策を実施して終わりではない。新たな課題を会社としても把握していくことが重要である。



システムと社員が共存できるJR東日本をつくりだそう！